

II. LD・ADHD通級指導教室の役割

通級指導教室とは、平成5年の学校教育法施行規則の改正により、制度化された「通級による指導の場」のことをいいます。平成18年には学校教育法施行規則の一部改正により、LD・ADHDの児童生徒が通級による指導の対象となりました。通級指導教室は基本的には、単一の障害を対象として設置されます。しかし、比較的指導内容が類似する場合には、二つ以上の障害種について対象とすることが可能となっています。

LD・ADHD通級指導教室（以下通級指導教室）の授業時数については、自立活動の指導と各教科の補充指導をあわせて、年間35単位時間からおおむね年間280単位時間以内で行うことを標準としています。なお、LD・ADHDの児童生徒については、指導上の効果が期待できる場合があることから、年間10単位時間以上（月1単位時間程度）となっています。

通級指導教室での専門的な指導が、日常生活の場で生かされるためには、児童生徒への支援・指導とともに保護者への支援、在籍学級の担任との連携がとても重要になります。



児童生徒への支援

早期の取組がより効果的！

一人一人の児童生徒のニーズに対応し、自信や意欲を育てます。「できた」「分かった」という体験や、それに伴う評価は、生活や学習面において大きな原動力となります。実態把握をし、個々の能力や状態に応じた個別の計画を立て、その子に合った指導を行います。

支援例

- ・整理された環境、安心できる環境を提供し、情緒の安定を図る
- ・生活のリズムや基本的な生活習慣の形成を促す
- ・認知能力の特性に応じた学習に関するスキルの習得を図る
- ・社会的な能力・適応力の育成を図る
- ・内面に寄り添いながら適切な自己理解を促す

保護者への支援

保護者は一番の味方！ まずは信頼関係作りから

保護者の話をよく聞いて、気持ちを理解することにより精神的な支えとなるように心がけます。

そして保護者がより深く子どもを理解できるように、障害特性やその対応について、正確な情報を提供して、しっかりとした親子関係が築けるようにサポートをします。こうして構築された親との絆は、子どもの情緒の安定へとつながります。

また、保護者には通級による指導の場面をできるだけ参観してもらいましょう。実際の子どもの様子を理解した後で、学校や家庭でできることを話し合い、ともに取り組んでいく姿勢を築いていきます。

支援例

- ・保護者の仲間作り、交流の場を提供する（保護者会・懇談会）
- ・専門的な立場からの情報提供をする（保護者学習会）
- ・精神面で寄り添う（教育相談）

在籍学級との連携

連携・協力でパワーアップ！

通級指導教室での指導は、児童生徒の主な生活の場である在籍学級で生かされることが大切です。

そのため、通級指導教室担当教員は、児童生徒の理解のための情報を提供し、在籍学級での指導に生かしていけるような支援の在り方について話し合います。連絡帳での日常的なやりとりのほか、在籍校を訪問して共通理解を深める等、お互いの連携を密に図っていきます。

通級指導教室担当教員と在籍学級担任は、児童生徒のよき理解者として定期的・弾力的に連携を図ることが大切です。

連携例

- ・通級指導教室担当教員が補佐役としてケース会議を実施
- ・定期的な在籍校訪問（情報交換・支援に関する助言）
- ・個別の指導計画作成の援助（または共同での作成）
- ・長期休業中における通級指導教室の授業公開（指導法の共有化）
- ・通級指導教室担当教員による通常の学級における授業の展開
（教材教具の提供、注意の喚起の方法、提示や板書の仕方の工夫）
- ・在籍校職員に向けての情報提供
- ・研修会講師（特性の理解と支援について等） お便りの発行

実際の連携より：在籍学級担任へのお便り

通級指導教室担当教員から、在籍学級担任に向けたいくつかのお便りの抜粋を紹介します。

◆学級の仲間から離れて、一人だけ違う場所で学習をするのは、抵抗を感じるものです。

通級の時間になっても、出かけるきっかけがつかめず、もじもじしている児童に「行ってらっしゃい、頑張っ！」「おかえりなさい、今ね、〇〇していたんだよ」と、声をかけて下さい。

ゆくゆくは、子どもから大きな声で挨拶ができるようにと、頑張っています。

◆保護者や本人の了解が得られたら、クラスの子ども達に、〇〇さんが通級していることを伝えて下さい。その際、通級を肯定的に捉えられるように話して下さい。

例：〇〇さんは、〇〇するのが苦手です。
でもゆっくり取り組むことで、上手にできるようになっています。みんなで応援していきましょう。

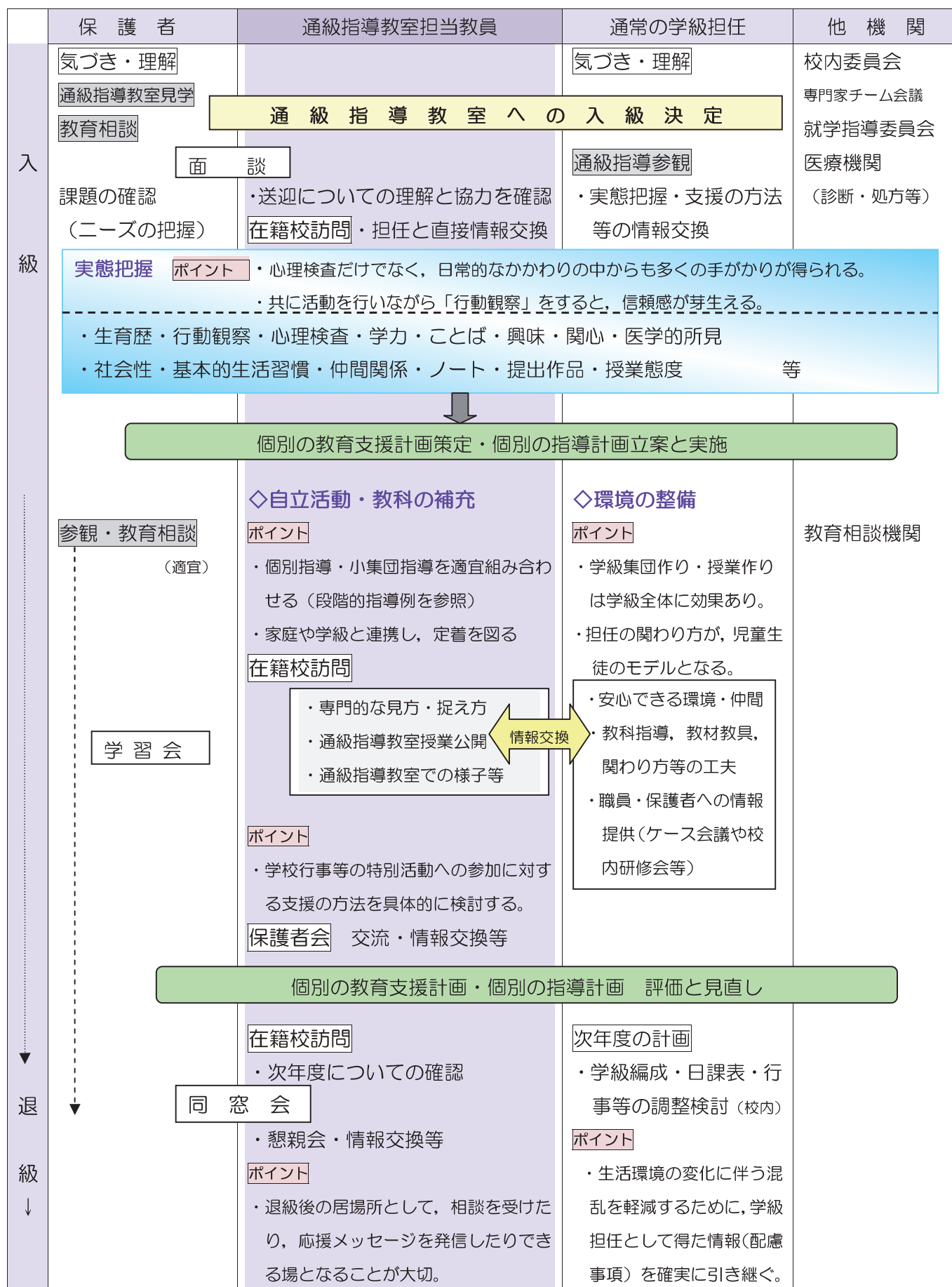
◆通級による指導にあわせて、日課をご配慮いただき、ありがとうございます。
—中略—

〇〇さんは、「自分がいない間に、みんなは、どんなことをしているのかな」と、とても気にしているようです。

また、保護者の方もその間の学習の遅れ等を、心配しています。

そこで、この点について、少し時間を見つけて相談にのっていただいたり、連絡帳等で伝えていただいたりすると、親子とも安心して通級指導教室に通うことができます。—中略— 子どもは、学級の先生に褒められることが一番うれしいようです。是非、通級での話を聞いて、たっぷり褒めて下さい。

Ⅲ. LD・ADHD通級指導教室連携スケジュール例



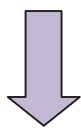
IV. 入級から退級へむけての段階的指導例

子どもの状態を適切に把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善・克服するための適切な指導と必要な支援を、在籍学級担任や保護者との連携を図りながら、じっくりとすすめていきましょう。



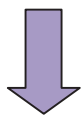
第1ステージ

確認(人・場)



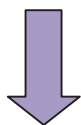
第2ステージ

居場所作り



第3ステージ

実行



第4ステージ

応用

入 級 期

ポイント

観 察

「ここは安心」という環境を提供します。生活の中で、何だかうまくいかないうことが多く、自信をなくしたり不安定になったりしている子どもに対して、基本的なルールのみを確認し、危険なこと以外はできるだけ見守りながら、何をどのように困っているのかを探ります。

ポイント

ともに活動

子どものペースに合わせるように、一緒に活動しながら信頼関係を築いていきます。子どもの興味関心のある活動を用意し、参加を促します。学習態勢を整えながら、それぞれの特性に合った学習方法を探ります。

ポイント

実行可能な目標と的確な評価

少し頑張ればできる課題を、スモールステップで組み立てて実行を促します。「できた」「分かった」という経験に対して、その場でしっかりと評価し、自己肯定感を高めていきます。失敗した場合は、次の手だてと一緒に考え、それに向けて励ますことが大切です。

退級準備期

ポイント

弾力的な指導

自分とは違う価値観があることに気づき、それを少しずつ受け入れていくこと（自己理解・他者理解）を、小集団での指導の中で育てていきます。

課題が生じた時には個別指導で基本を確認し、再び、持てる力を生かすようにします。

個別での指導

小集団での指導